

プラチナ大学

ヨソモノ街おこしコース

あいずっこ人材・育成プロジェクト
はてな・ふしぎ 理数教室

2017年8月7日

(一社) ディレクトフォース
萩原秀留

私と会津若松市との関わり

- 1975年4月～1980年7月転勤で工場勤務
- 三人の子どもは小・中学校時代を過ごす
- 従業員の名前覚えるのに大変！
- 次男三男が家を継がずに婿入りして、
入社時と異なる苗字の男性社員が多い
- 鹿児島出身の男性社員と
会津の女性との結婚に驚き！

出前理科実験 会津若松市での取り組み

科学的なものの見方や数学的な考え方は、未来を担う児童生徒に育まなければならない大切な資質や能力である。そこで、著名な理数系の講師による授業を通して、普段の授業だけでは味わえない科学や数学のおもしろさや身近な生活の中にある疑問（はてな）、不思議な現象を実感させ、児童生徒の科学的・数学的な考え方を伸ばし、科学・数学を追究していく芽を育むきっかけとしたい。

会津若松市の取り組み

会津っ子人材育成プロジェクト
はてな・ふしぎ わくわく理数教室

目的 理数離れをなくしたい
対象 全中学校(11校)
頻度 平成21年度から毎年5~6校
中学校側からみると隔年

会津若松市立 第二中学校での実験

対象学年：1年生 3クラス（32、34、35名）

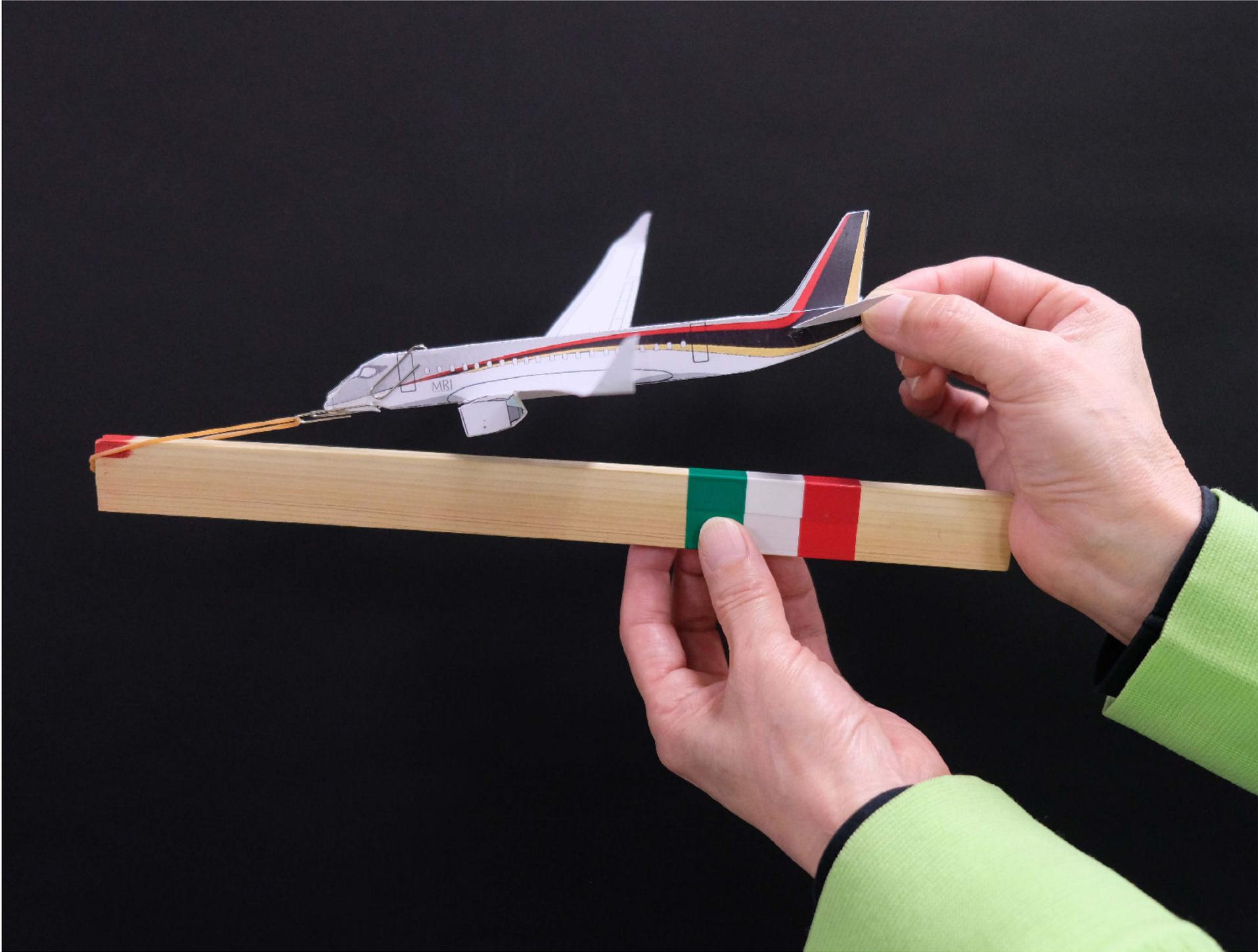
計 101名 3回 各100分授業

テーマ：飛行機はどうして飛ぶのか

紙飛行機製作

スプーン・ナイフでの風の力の実験

飛行機の歴史



生徒の感想：

- 飛ぶ原理はエンジンだけかと思っていたが風が重要だと解った
- 構造と歴史が良く分かった
- 作って飛ばしたことが楽しかった

我々の感想：

一般的に小学校高学年から中学生は実験中生徒の反応がわかりにくいですが、その表情からよく理解されたと思われた。

(今年、市内の第六中学校から依頼があり、
10月に飛行機の実験を行う予定)